

副本

平成25年(ワ)第9521号, 同第12947号, 平成26年(ワ)第2109号
損害賠償請求事件

原告 第1次訴訟原告1-1 ほか220名

被告 国 ほか1名

被告国第7準備書面

平成28年6月2日

大阪地方裁判所第22民事部合議3係 御中

被告国指定代理人

鈴木 和



清水 真



今村 弘



帆足 智典



鈴木 優香子



原田 剛



田中 宏



中野雅康 

竹原友深 


貝原研人 

竹本亮 

武田龍夫 


田中博史 

矢野諭 

内山則之 


佐々木陽子 

木村真一 

谷川泰淳 

小野祐二 

布田洋史 

足立恭二 


荒川一郎 

忠内巖大 

熊谷和宣 

小野雅士 

齋藤哲也 

藤原弘成 

鈴木健之 

森野央士 


大瀧拓馬 

池田健太郎 

住田博正 

東海斗 

服部翔生 

高野菊雄 

京 藤 雄 太 

田 口 周 平 

細 川 成 己 

水 越 貴 紀 

福 島 正 也 

川 原 佑 介 

被告国は、被告国第5準備書面において、原告ら第19準備書面第3に記載の求
釈明に対し、必要と認める限度で回答したが、本準備書面において、被告国第5準
備書面第2の1（原告ら第19準備書面第3の2・①に対する回答）の内容につい
て、ふえんして述べる。

なお、略語については、従前の例による。

- 1 保安院は、平成14年3月、被告東電から、福島第一発電所の護岸前面におけ
る想定津波の津波高さについて、津波評価技術に基づいて算出した結果、その最
高水位がO. P. +5.4ないし5.7メートルであった旨の報告を受け、さら
に、平成21年8月頃、被告東電から、福島第一発電所及び福島第二発電所の護
岸前面における想定津波の津波高さについて、津波評価技術に基づいて再度算出
した結果、その最高水位がO. P. +5ないし6メートルであった旨の報告を受
けた（甲A第1号証・政府事故調査中間報告書・本文編381, 401ページ）。
- 2 そのため、被告国は、福島第一発電所の護岸前面における想定津波の津波高さ
（最高水位）について、O. P. +5ないし6メートルと想定していた。